

演題名: 看護の質向上に資する看護政策評価のためのデータベース構築に向けた研究

演者名: 林田 賢史, 友滝 愛, 久貝 波留菜, 矢坂 泰介

- 出資元: 公益社団法人 日本看護協会
- 協力講座
 - 公共健康医学専攻 臨床疫学・経済学(康永秀生教授)
 - 健康科学・看護学専攻 看護管理学/看護体系・機能学(池田真理教授)
- ナーシングデータサイエンス講座 講座員
 - 林田賢史(特任教授), 友滝愛(特任准教授)
 - 久貝波留菜・矢坂泰介(特任助教), 張俊華(特任研究員)
 - 岩花彰子・森島美音子(学術専門職員)
- 講座ウェブサイト <https://nds.m.u-tokyo.ac.jp/>



運営体制: 協力講座との運営ミーティング(月3回)、東京大学・日本看護協会連絡協議会(年3回)、実務者会議(月1回)、日本看護協会への収支報告・活動報告(年1回)、日本看護協会・法人委員会での活動報告(年3回)

- 将来にわたって公正・公平で質の高い看護の提供体制を維持するためのエビデンス創出により、国民のwell-beingに貢献
- ナーシングデータサイエンスでデータの価値の最大化し、臨床、政策・行政、学術の連携によりエビデンスの創出を加速させる

東京大学と日本看護協会による共同研究

- リアルワールドデータの利用等の研究環境が整っている研究者と、職能団体として看護の現場の情報を把握しやすい日本看護協会の連携
- 恒常的な研究体制を整備し、看護のエビデンスに基づく政策形成を推進 (林田ら, 2026)

人口構造の変化や「治し、支える医療」への転換等に伴う看護サービス提供体制の見直し
➡ 根拠となるリアルワールドエビデンスが必要

リアルワールドエビデンスの不足

課題1: 看護研究で活用可能なデータが乏しい

- 代表的な大規模データベースでは、看護職の行為や観察のデータ、看護実践に感度の高いアウトカムデータが不十分
- 標準化された看護のデータが限定的

課題2: 人材不足

- 従来の量的研究に加え、疫学、統計学、情報学、工学等の多様な知識や経験を有する看護系人材の不足
- 異なる分野の専門家やステークホルダーと協働できる人材の不足

リアルワールドエビデンスの創出に向けた取り組み

(設置期間: 2025年1月1日 ~ 2029年12月31日)

当講座の研究テーマの例

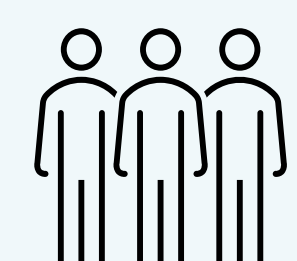
日本の看護職の需給予測



看護サービスの供給量の地域格差



組織やユニットに着目した医療安全・看護の質指標の評価



個々の看護職のwell-beingと働き方・労働環境の評価



効果的なケアや看護配置の評価

利活用するオープンデータの例

- 病床機能報告
- 衛生行政報告例
- 看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査
- 人口動態統計
- 将来推計人口
- NDBオープンデータ

利活用するデータソースの例

- 職能団体等の団体が所有するデータ
- 医療情報システム由来のデータ
- 医療・介護レセプトデータ
- DPCデータ

データベース構築

- 看護職の行為や観察の記録の標準化のための準備研究
- 看護職の配置や就労に関するデータベースの構築
- 学協会等が構築するデータベースの支援
- リアルワールドデータのデータベース化と2次利用(オープン化)のための倫理的・技術的整備

研究例 心不全看護認定看護師の配置と心不全患者の転帰の関連の研究

- 全国約1600病院の心不全患者約100万人を対象とした研究
- 日本看護協会が有する認定看護師の配置に関するデータとDPCデータを結合
- 心不全看護認定看護師の在籍が入院死亡率の低下と関連 (Nursing Outlook, 2026;74:102605)

研究例 看護系学会におけるデータベース利活用・構築の現状等の調査

- 日本看護系学会協議会所属の49学会を対象とした調査で、20学会より回答
- データベース利活用の推進に取り組む学会は少ない、理由は重要な介入プロセス・アウトカムの測定や資金確保等
- データベースの利活用・構築を促進する方略: 看護に関するデータの定量化、人材育成等 (日本看護科学学会学術集会, 2025)

研究例 データベース構築・利活用に関する専門家インタビュー

- データベース構築・利活用の経験等がある専門家22人を対象としたインタビュー調査
- 看護に関する研究は行われているが、課題として、電子カルテデータでは看護記録等のデータ項目の標準化・データ精度、DPCデータにおける看護師の行為に関する項目の少なさ、「重症度、医療・看護必要度」の改訂による縦断研究の困難等があげられた
- レジストリ構築では、目的や必要性の明確化、看護職の実践に関する収集項目の議論、他のデータベースと連結可能なデータベース構築の必要性等の意見が得られた (看護学分野でデータベースの利活用・構築を促進するため提言, 2025; 日本看護科学学会学術集会, 2025)

研究例 「重症度、医療・看護必要度」を活用した研究のスコopingレビュー

- 看護師の実践に関する標準化されたデータである「重症度、医療・看護必要度」を活用した研究に関する文献レビュー (現在進行中)
- レビュープロトコル: Trends in Research Using a rating tool for "Nursing Care Needs" in Japanese acute care settings: A Scoping Review Protocol (<https://osf.io/bvd3r>)

研究例 外来看護の質評価指標の特定

- 外来患者に対する取り組みに関する看護師を対象としたインタビュー調査
- 医療の質評価(ストラクチャ、プロセス、アウトカム)のフレームワークを用い、外来看護の質評価指標を抽出 (論文投稿中)